

【予告】 SLOW MOVEMENT の新たな挑戦  
2/11 『SLOW MOVEMENT -The Eternal Symphony- 2nd mov.』 (新豊洲)  
2/12 ショーケース&フォーラム (青山)



SLOW MOVEMENT 六本木アートナイトスペシャルバージョン

スロームーブメント実行委員会では、2月に2本のイベントを企画しています。

2月11日(土)は、「SLOW MOVEMENT -The Eternal Symphony-」の第二楽章として、演出・振付にダンサー、森山開次を迎え、市民参加型で作り上げ新豊洲 Brillia ランニングスタジアムにて行う新しい形のパフォーマンス公演。

2月12日(日)は、前日とは対照的に少数精鋭のパフォーマーとつくるショーケース作品と、2020年に向けて障害者の舞台芸術について考えるフォーラムを青山のスパイラルホールで開催します。

ぜひご予約おきください。

あわせて、ご取材・ご掲載の検討をお願いいたします。

※最新情報はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.slowlabel.info>

取材及び本イベントに関する資料、写真をご希望の際は下記までご連絡下さい。

スローレーベル広報担当 橋爪 (はしづめ) / 橋本 (はしもと)

E-mail [pr@slowlabel.info](mailto:pr@slowlabel.info) TEL 045-661-0602 / 080-6190-7071 (橋爪) FAX 045-345-4957

**2/11 SLOW MOVEMENT -The Eternal Symphony- 2nd mov.**

The Eternal Symphony 第二楽章、舞台は「大地」へ！  
三角みづ紀が書きおろす前作の続きとなる詩を元に、  
新たな物語を紡ぎだしていきます。  
今回、演出・振付を手がけるのは、ダンスのみならず、  
演劇、映画、テレビなど幅広い媒体での表現活動に積  
極的に参加している森山開次。  
2016年8月の選考会で選ばれた市民パフォーマーと  
共に創作に挑みます。



森山開次  
(Photo: Sadato Ishizuka)

**開催概要****SLOW MOVEMENT -The Eternal Symphony- 2nd mov.**

日程：2017年2月11日（土）開場14:00 開演14:30

会場：新豊洲Brilliaランニングスタジアム（東京都江東区豊洲6-4-2）

観覧料：無料

※要申込。応募者多数の場合は抽選。お申込みは12月下旬にウェブサイトにて受付開始。

総合演出：栗栖良依（SLOW LABEL）

演出・振付：森山開次

詩：三角みづ紀

主催：スロームーブメント実行委員会（特定非営利活動法人スローレーベル、スパイラル/株式会社ワコールアートセンター）

特別協力：ヤマハ株式会社、ヤマハ発動機株式会社

協力：アトリエコーナス、江東区青少年対策豊洲地区委員会、江東区立第二辰巳小学校、江東区立豊洲西小学校、

東京ガス用地開発株式会社、ラック産業株式会社、株式会社ワコール

助成：アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

**SLOW MOVEMENT 作品概要**

「SLOW MOVEMENT」とは、＜多様性と調和＞のメッセージを街中に広めていくことをめざし、  
総合演出・栗栖良依のもと、様々な分野のアーティストと、年齢、性別、国籍、障害の有無を越え  
た多様な市民が協働して創作する市民参加型パフォーマンスプロジェクトです。

2015年に活動をスタートし、スパイラル、国連大学前広場、豊洲公園、象の鼻テラスにて『The  
Eternal Symphony 1st mov.（第一楽章）』を発表。その後、東京、静岡、大阪、長野など日本各  
地でワークショップやミニパフォーマンスを重ねたのち、2016年10月には六本木アートナイトに  
てスペシャルバージョンを発表して話題となりました。

また、作品制作や発表を通して、障害のあるパフォーマーの発掘・育成はもちろん、アカンパニスト  
やアクセスコーディネーター（\*）といった環境を整えるための人材育成も行っています。

\* アカンパニスト/アクセスコーディネーターとは・・・

障害のある人がアート活動に参加するとき、環境面、創作面、物理面、心理面…… 様々な側面から、アート活動をサポートする役割を果たす存在としてスローレーベルが考える役割。アカンパニスト（＝伴奏者）と一緒に創作活動を行い、お互いの充実した創作体験や、最高の作品づくりを目指し活動に取り組みます。もう一つの役割として、ひとりひとりにとって最もよい環境をさぐり、創造性が発揮できる環境を整える人材、アクセスコーディネーターの実践と育成も行っています。

詳しくはこちら>><http://www.slowlabel.info/project/access/>



第一楽章の様子

### 【新豊洲 Brillia ランニングスタジアムについて】

新豊洲 Brillia ランニングスタジアムは、誰もが走り、体を動かし、表現することを楽しむための施設です。全天候型施設内トラックには、オリンピックや国際競技会にも多数採用されているモンド社の「スーパーX」が6レーン分採用されており、このトラックではTRACによる小学生向けかけっこスクールが開講されるほか、個人のアスリートの方々のトレーニングにも利用可能。また膜構造で覆われた広大な未来的空間は、コマーシャルやテレビなどの撮影、イベント会場としても活用可能です。（施設パンフレットより抜粋）SLOW LABELはこの施設において、障害のあるダンサーやパフォーマー、その活動をサポートする専門家のトレーニングを展開します。



**2/12 ショーケース&フォーラム****ショーケース**

市民参加を中心とした The Eternal Symphony から一変し、少数精鋭のパフォーマーたちと実験的な作品づくりに挑戦します。

総合演出：栗栖良依

**1. 身体的に多様なダンサーたちによる現代サーカス**

演出：金井ケイスケ

出演：大前光市、かんばらけんた、森田かずよ、  
吉田亜希、高津会、定行夏海



大前光市

**2. 聴こえないダンサーたちによるダンス劇**

演出：熊谷拓明

出演：鹿子澤拳、南雲麻衣



かんばらけんた

**フォーラム**

東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の舞台芸術を考えるフォーラムと共に、終了後にはインクルシブな舞台制作に取り組む団体と文化芸術関係者の交流の場をつくります。

登壇者（予定）：

栗栖良依（SLOW LABEL ディレクター）

柴田翔平（Stopgap Dance Company プロデューサー）

菅野薫（株式会社電通 CDC / Dentsu Lab Tokyo グループ・クリエイティブ・ディレクター／クリエイティブ・テクノロジスト）

鈴木京子（国際障害者交流センター ビッグ・アイ 事業プロデューサー）

**開催概要****ショーケース&フォーラム（仮題）**

日程：2017年2月12日（日） 14:00～17:30 予定（終了後 交流会あり）

会場：スパイラルホール（東京都港区南青山5-6-23 スパイラル3F）

観覧料：無料

※要申込。応募者多数の場合は抽選。お申込みは12月下旬にウェブサイトにて受付開始。

主催：スロームーブメント実行委員会（スパイラル／株式会社ワコールアートセンター、特定非営利活動法人スローレーベル）

共催：港区 <平成 28 年度港区文化プログラム連携事業>

助成：アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

協力：国際障害者交流センター ビッグ・アイ

## 総合演出 ディレクタープロフィール

栗栖良依 くりす・よしえ (SLOW LABEL ディレクター)

1977年東京都生まれ。7歳より創作ダンスを始める。高校生の時にリレハンメルオリンピックの開会式に感銘を受け、卒業後は東京造形大学に進学。在学中から大手イベント会社に所属し、スポーツの国際大会や各種文化イベントで運営や舞台制作の実務を学び、長野五輪では選手村内の式典交流班として運営に携わる。2006～07年、イタリアのドムスアカデミーに留学、ビジネスデザイン修士号取得。帰国後、東京とミラノを拠点に世界各地を旅しながら、各分野の専門家や地域を繋げ、商品やイベント、市民参加型エンターテインメント作品のプロデュースを手掛ける。10年、骨肉腫を発病し右下肢機能全廃。翌年、右脚に障害を抱えながら社会復帰を果たし、国内外で活躍するアーティストと障害者を繋げた市民参加型のづくり「スローレーベル」を設立。14年「ヨコハマ・パトリエンナーレ 2014」総合ディレクターを務め、日本のコ・クリエイションアワード ベストケーススタディ賞受賞（インフォバーン、電通）。2016年第65回横浜文化賞「文化・芸術奨励賞」受賞。



Photo: Masaya Tanaka

## 2/11 新豊洲 クリエイタープロフィール

## ＜演出・振付＞

森山開次 もりやま・かいじ (ダンサー・振付家)

2001年エジンバラフェスティバルにて「今年最も才能のあるダンサーのひとり」と評された後、自身が演出振付出演するダンス作品の発表を開始。07年ヴェネチアビエンナーレ招聘など国内外での公演活動多数。12年発表の新国立劇場ダンス公演『曼荼羅の宇宙』にて芸術選奨新人賞他3賞受賞。平成25年度文化庁文化交流使。

ひびのこづえ、川瀬浩介との協働『LIVE BONE』を国内外20都市以上で上演。

ジャンルを超えたコラボレーションに積極的に取り組むほか、舞台のみならずTVCF・映像作品・大型文化イベントなどの振付にも活動の場を広げている。

## ＜詩作＞

三角みづ紀 みすみ・みづき (詩人)

詩人。1981年鹿児島県生まれ。東京造形大学在学中に詩の投稿をはじめ、第42回現代詩手帖賞受賞。第1詩集『オウバアキル』にて第10回中原中也賞を受賞。第2詩集『カナシヤル』で南日本文学賞と歴程新鋭賞を受賞。書評やエッセー執筆、詩のワークショップもおこなっている。朗読活動を精力的に続け、自身のユニットのCDを2枚発表し、スロヴェニア国際詩祭やリトアニア国際詩祭に招聘される。2014年、第5詩集『隣人のいない部屋』で第22回萩原朔太郎賞を史上最年少受賞。2016年8月、第7詩集『よいひかり』（ナナロク社）を上梓。美術館での展示や作詞等、あらゆる表現を詩として発信している。

## 2/12 青山 クリエイタープロフィール

## 1.身体的に多様なダンサーたちによる現代サーカス

## ＜演出家＞

金井ケイスケ かない・けいすけ (サーカスアーティスト)

中学在学中に新宿で大道芸を始める。97年文化庁国内研修員として能を学んだ後、99年文化庁海外派遣研修員として、日本人で初めてフランス国立サーカス大(CNAC)へ留学。卒業後フィリップ・デュクフレ演出のサーカス『CYRK13』で2年間のヨーロッパツアー。その後、フランス現代サーカスカンパニー「OKIHAIKUDAN」をセバスチャン・ドルトと立ち上げ、ヨーロッパ7カ国を巡演し、リバイバル公演など150公演以上。フランス外務省派遣カンパニーとして、中東、アフリカ25カ国で公演、劇場文化の無い都市、紛争地域で人種や宗教を超えたワークショップや発表を行う。2009年帰国。パフォーマンスグループ「くるくるシルクDX」参加。札幌芸術の森、越後妻有アートトリエンナーレ、横浜Bankart、茨城・アーカス他、国内外のフェスティバルに出演。



### <主なキャスト>

大前光市 おおまえ・こういち (義足のダンサー)

交通事故で左足を失ったプロダンサー。

バレエやコンテンポラリーを得意とし、日本各地の舞台のほか、プラハやタリンなど海外の歴史ある舞台で活躍する。

古典作品においては、左足に目立たない義足を装着。鍛え抜いた身体能力で、観る人に義足を感じさせない。オリジナル作品では、長短様々な義足を使うことで、表現の幅を広げる。国内有数のコンクールで、受賞歴多数。特に表現力において、高い評価を得ている。ロシアの名門、ポリショイバレエでプリンシパルを育てる世界最高峰の教師アレクサンドル・ヴェトロフ氏は“感情表現に長けた素晴らしいダンサー”と称える。テレビや新聞などメディアへの出演も多く、日本でいま最も注目度の高いダンサーの一人。

かんばらけんた かんばら・けんた (車椅子パフォーマー)

「二分脊椎症」という障害を持って生まれ、システムエンジニアとして働く。2015年、SLOW LABEL『スロームーブメント』に車椅子ダンサーとして出演したことをきっかけに表現活動を始め、現在は「Integrated Dance Company 響 Kyo」にも所属し、活動の幅を広げている。車椅子の上で逆立ちなどアクロバティックな演技が特徴。

森田かずよ もりた・かずよ (義足の女優・ダンサー)

二分脊椎症・先天性奇形・側湾症を持って生まれる。高校生の時に観たミュージカルがきっかけで、18歳より芝居を始める。

「Performance For All People.CONVEY」主宰。循環プロジェクト『≡2 (にあいこーのじじょう)』(2008年) 奈良障害者芸術祭 HAPPY SPOT 奈良 「鹿の劇場 ～からだの発見～」 ソロダンス「アルクアシタ」(2012年)/ニットキャップシアター第33回公演『小年王マヨワ』(2013年)/ヨコハマ・パラトリエンナーレ(2014年)/ファウストの恋人(2015年)/庭劇団ベニノ「タニノとドワーフ達によるカントールに捧げるオマージュ」(2015年) 他多数。第11回北九州&アジア全国洋舞コンクール パリアフリー部門チャレンジャー賞、DANCE COMPLEX vol11 芸術創造館・館長賞受賞。

吉田亜希 よしだ・あき (エアリアルダンサー)

幼少期から体操競技を始め大学卒業後テーマパークにてアクロバット&フライングショーに出演。所属中ダンスに興味を持ちバレエ、コンテンポラリーダンス、ストリートダンス等の身体表現を学び、同時に空中パフォーマンスと出会う。近年、米英国で、エアリアルの修行にはげみ、現在エアリアルティッシュを中心にフリーランスでサーカス枠にとられない空中の自由な表現を模索中。

## 2.聴こえないダンサーたちによるダンス劇

### <演出>

熊谷拓明 くまがい・ひろあき (ダンス劇作家、ダンサー)

ジャズダンス、バレエ、タップ、コンテンポラリーなどを学び、スタジオインストラクターとして数々の舞台、イベントに出演。その後、アーティストのサポートダンサーやバレエダンサーへの振付、演出など活動の場を広げる。2008年、シルクドソレイユの新作クリエイションに参加するためモンテリオールへ渡った後、ラスベガスにて2年間で800ステージに出演。2010年帰国、自ら演出、振付する作品をダンス劇と呼び、独特なゆるいセリフと、しなやかな動きで物語を繰り広げる作品を数多く発表。

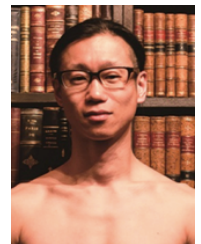


Photo: 大洞博靖

### <キャスト>

鹿子澤拳 かのこざわ・けん (ダンサー)

1995年生まれ。先天性の聴覚障害がある。幼い頃よりダンスを好む。筑波技術大学ダンスサークル「Soul Impression」に所属し本格的にストリートダンスを学ぶ。

2015年、近畿大学舞台芸術学科との合同公演 BiG-i ART FESTIVAL 2015「HALO ～踊りだす色～」でコンテンポラリーダンスに初挑戦。2016年夏 単身渡米しNY・Broadway Dance Center(BDC)にて様々なジャンルのダンスを学ぶ。2016年11月 昨年に引き続き、BiG-i ART FESTIVAL 2016「BEAT 見えたよ きみの音」に出演、構成を担当。大学卒業後は本格的に表現活動を開始する。

南雲麻衣 なぐも・まい (ダンサー)

1989年生まれ。聾者。5歳からモダンダンスを始め、和光大学で創作ダンスを学ぶ。風の市プロデュースと齋藤徹で遠野物語を題材にした台詞なしのコンテンポラリー舞踊「牡丹と馬」を挑む。以後、ピナ・パウシュ舞踊団の元ダンサー、ジャン・サスポータスと「聴くこと・待つこと・信じること」で共演、2013年小野寺修二(カンパニーデラシネラ)の「鑑賞者」に参加。学生時代まで人工内耳を装着して踊っていたが、音による不自由さを感じ、装着するのをやめた。以後、聴覚以外の感覚を使って踊るスタイルを突き通している。

## 2/12 青山 フォーラム登壇者プロフィール

柴田翔平 しばた・しょうへい (Stopgap Dance Company プロデューサー)

95年に渡英し、05年 London School Economics 卒業。アーツカウンシルイングランド東南局長の秘書を務めた後、08年 Stopgap Dance Company のプロデューサーに就任。障害の有／無のプロダンサーが出演する世界的レベルの作品とその海外ツアーを多く手がける他、インクルーシブなダンサー育成プログラムでも高い評価を得ている。

菅野薫 すがの・かおる

(株式会社電通 CDC / Dentsu Lab Tokyo グループ・クリエイティブ・ディレクター／クリエイティブ・テクノロジスト)

2002年電通入社。テクノロジーと表現を専門に幅広い業務に従事。

本田技研工業インターナビ「Sound of Honda /Ayrton Senna1989」、Apple Appstore の2013年ベストアプリ「RoadMovies」、東京オリンピック招致最終プレゼン「太田雄貴 Fencing Visualized」、国立競技場56年の歴史の最後の15分間企画演出、等々活動は多岐に渡る。

JAAA クリエイター・オブ・ザ・イヤー (2014年) /カンヌライオンズチタニウム部門 グランプリ / D&AD Black Pencil // 文化庁メディア芸術祭 大賞 / Prix Ars Electronica 栄誉賞など、国内外の広告、デザイン、アート様々な領域で受賞多数。

鈴木京子 すずき・きょうこ (国際障害者交流センター ビッグ・アイ 事業プロデューサー)

1997年よりフリーランスで舞台・イベントの仕事に携わったのち、1999年に企画制作会社『リアライズ』を設立。2001年より『国際障害者交流センター ビッグ・アイ』の事業企画に携わる。ビッグ・アイの仕事をきっかけに障害の有無にかかわらず誰もが舞台芸術に表現者や鑑賞者として参加できる舞台の企画、制作をおこなう。

厚生労働省 障害者の芸術文化活動支援 モデル事業 審査委員。

厚生労働省・文化庁 2020年東京オリパラ競技大会に向けた障害者の芸術文化振興に関する懇談会委員。

著書「インクルーシブ シアターを目指して／障害者差別解消法で劇場はどうかわるか」(ビレッジプレス)